

銀座水族館(七つの海の魚および水産切手)



—36—

三崎出張所 神原 勇

イ ッ カ ク
 分類 鯨目 齒鯨亜目 イッカク科
 学名 *Monodon monoceros*
 英名 Narwhal, Monodon

イッカクは伝説上の一角獣(Unicorn)のイメージになったもので、和名では一角獣、一角鯨と呼ぶ事もある。他の鯨類に比べて大きな特徴はカジキ類と同じように、雄の吻端に“つ”が見られることで、体長5mのもので、“つ”の長さは2.5mほどあり“つ”の先端からの全長は7.5mの比較的大型種である。この“つ”は上顎の一番先端の犬歯が伸びたもので2.5mの大きさになるのに10~15年ぐらいかかる。3才の雄では未だ小指の先程で十分に発達していない。犬歯は虎や狼のキバに相当し、通常1対あるが雄のイッカクは左側の1本だけが長くのび、右側のものが長くのびて2本あるものも稀に発見されることがある。いずれの場合も左巻にねじれている。2.5mの“つ”の付根の直径12cm、重さ7.5kg位あってかなりの重量である。雌は成熟しても小指ほどにしかならず目立つことはない。

鯨類の中でイッカク科とカマイルカ科のものだけが、他の陸棲哺乳類と同じように首を廻すことが出来、大きな特徴となっている。他の鯨類は首の7つの骨がくっついているが、イッカクははなれているので自在なる所以である。

イッカクの体型は紡錘形で頭は丸く背鰭がない。体色は幼獣ではアイネズミ色、成獣では白色又はパールグレイで背部にアイネズミ色かグレイの淡い斑紋を有するものもある。老成すると皮膚がややのびて斑紋がばらついて見られるが、そのばらついた隙間は淡い色どりとなっている。

北半球の北氷洋にのみ分布し南半球には見られない。北アメリカ側よりもソ連側に多く大きな河の河口付近に生息する。北氷洋より出てイギリス本土に漂着した記録

もある。

極点から1,200km離れた世界最北の村、グリーンランドのシホラバルでは平均気温-30°Cの長い8ヶ月の冬も終り、夏が訪れ、7月下旬には太陽の沈まない白夜が続くようになると、イッカク漁が始まる。風のない静穏の日にイッカクは50~100頭の群をなして湾内に侵入する。エスキモー人は長さ4m位の海獣の皮で作った1人乗りのカヤックを操って群を追う。イッカクの皮を細く割り干し上げた銜網と銜、海獣の皮で作った浮きもっているが、この浮きは銜が命中したときイッカクが深く潜水するのを防ぎ且又弱らせるのに役立つ。イッカクは泳ぐとき“つ”を滅多に見せない。“つ”が体軸に対して下向きについているためである。尾鰭、胸鰭は小さく背鰭はないので、背部の一部だけが見られるだけである。

泳ぐ速さは5~6ノット位であるが、カヤックの追尾を気付いたときとか、餌を追い廻すときには20ノットに達することがある。追尾は必ず群の後方より近付き最後尾のものをねらう。群が気づいて四散するのを防ぐためである。

イッカクは音に対して極めて敏感であるため船外機等のモーターボートは使用出来ず、専らカヤックにのみ頼っている。カヤックに用いる櫂は両端が幅広く平らにうすくなっていて、真中をもち左右交互に海水をおしわけ前進する。捕獲したイッカクは皮をはぎ皮は前述のように網その他に利用され、肉は海岸近くに石で囲みをつくり貯蔵し冬季間の蛋白源とされる。“つ”は母国のデンマークに運ばれ1本50万円位で取引される。

イ ッ カ ク

分類： 鯨目 齒鯨亜目 イッカク科 (哺乳類)
 学名： *Monodon monoceros*
 英名： Narwhal, Monodon

北氷洋にのみ分布スルガ、アメリカ側、北氷洋ヨリソ連側に多ク。春ハ氷海付近ニマダヨリ遊ル事ガアル。大キナ特徴トシテイルカジキ類ノ剣先ノウチノモトハ雄ノ左ノ上顎歯ガ発達シテ「つ」ニシテイル。長サ2.5~2.9mヲ体長ノ2/3ヲ占メル。上顎歯ハ上顎先端ニ在リテ「つ」ハ終生埋没シテマダアル。雄ガハ種ヲ辨ズルガ「つ」ハ右ニ2本発達スル事ガアル。コノ長大イル鋭イ歯ハ此種獲得タメノ闘争ニ用レルモノト考ヘラレル。体色ハ若いヲ藍ネズミ色、成獣ニシテパールグレイ又ハ茶ネズミ色ヲ背部ニ藍ネズミ色又グレイノ斑紋ヲ有スルモノアル。多クハイカ類ヲソ連ニテ獲ル魚類、カニ、エビ等ヲ捕食スル。



カナダ -1968-



ソ連 -1971-



グリーンランド -1975-

